6/2 朝日

公邸忘年会 モラル劣化を憂う

税理士
（東京都 61）

岸田文雄首相の長男で政務秘書官の翔太郎氏が、首相公邸で「忘年会」を開いたことが問題となった。野党ばかりか与党の批判を受け、ようやく首相は更迭を決断した。

政治家の「甘い」対応は、国民に悪影響を与えていると捉えるべきだ。なぜなら国民の中に、「この程度であれば問題ないだろう。政治家だって自分たちに都合よく、甘くやってるじゃないか」という、倫理観や道徳心の欠如が生じてくるからだ。まさにモラルハザードの問題だ。このような現象は、森友・加計学園問題や公文書改ざんで際立ち、その後の東京五輪・パラリンピックを巡る贈収賄事件、大企業の品質偽装問題などにも見受けられないか。昨今相次ぐ若者による強盗事件で「闇バイト」などという軽い表現が使われる風潮にも同様の発想がないだろうか。

政治家のあるべき姿として、李下に冠を正さずといわれる。政治家が自らを律し範を示すことで、無意識ながらも国民に宿る精神があることを政治家は常に意識すべきだ。そしてそれは、政治家が当然に果たすべき「公務」の重要なひとつだと自覚してほしい。